

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：順天堂大学附属病院 精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：大沼 徹

住所：〒113-8421 東京都文京区本郷 3-1-3 大賀ビル 7F

電話番号：03-5801-1071

F A X：03-5802-1071

e-mail：mental@juntendo.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：(15) 人

■ 応募方法：

履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。

宛先：住所：〒113-8421 東京都文京区本郷 3-1-3 大賀ビル 7F

精神医学教室 医局長 黄田 常嘉

TEL：03-5801-1071、FAX：03-5801-1071

e-mail：mental@juntendo.ac.jp

■ 採用判定方法：

科長・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

順天堂大学医学部附属 精神医学教室は1950年（昭和25年）に懸田克躬教授のもとに開講され、1997年（平成9年）より、4代目として新井平伊教授のもと運営され、2000年（平成12年）には開局50周年を迎えている。平成11年7月から総合診療科外来に設置していた「心療内科外来」を「精神神経科外来」と統合し、精神科関連領域を包括的に扱うことを目的として、診療部門の名称を「精神神経科」から「メンタルクリニック」に変更し、現在に至っている。

精神医学を学ぶことは、現代社会におけるさまざまな問題を心の側面から探究し、実践を通して貢献していくことである。しかし、求められるものが広く深くなっているがゆえに表面的で偏った研修をすることはとても危うい側面もある。当教室の専門研修プログラムで特筆されるのは、全ての専門研修プログラムを大学附属病院内のみで行うことができることである。それは順天堂大学医学部が6つもの附属病院を有し、その全てにメンタルクリニック医局が存在することに基づく。本プログラムの基幹病院である順天堂医院、そして順天堂越谷病院、順天堂浦安病院、順天堂静岡病院、順天堂東京江東高齢者医療センター、順天堂練馬病院の5連携病院は、それぞれの役割を通して精神医学の研修を有機的で専門的かつEBMに基づいた実践を日々行っており、常に精神医学の指導者の指導の下で臨床研修に打ち込み、専門医を最短・最良の条件で取得出来るように研修・指導体制を整えている。そして当然のことながら、専門研修プログラム中に並行して、精神保健指定医の証も最短で取得することができる。また各個人の興味や関心に基づき、日本総合病院精神医学会、日本臨床精神神経薬理学会、また日本老年精神医学会、日本認知症学会などの認定専門医や指導医をはじめとして様々な認定医や専門医の資格も取得可能である。

偏りない広汎で専門的、かつ国際基準の精神医療を実践して行くために、御茶ノ水の順天堂医院は特定機能病院の指定を受けており、また2015年からはJCI（Joint Commission International：国際病院評価機構）の認証も受けるなど、総合病院における有床精神科という特色を持ち、一般精神医学（general psychiatry）を含めた総合病院精神医学（general hospital psychiatry）およびコンサルテーション・リエゾン精神医学（consultation-liaison psychiatry）、さらには緩和ケア（psycho oncology）にも取り組んでいる。更に一步進めて、各診療科と連携して精神と身体を統合的に診察・治療する場としてのMedical Psychiatry Unit（MPU）としての活動も行っている。また下記に示すよう、順天堂越谷病院では一般精神医学を中心とした臨床および研究を押し進め、順天堂浦安病院、静岡病院では、それぞれの特徴的な地域に根ざした総合病院精神医学およびコンサルテーション・リエゾン精神医学の実践が行われている。順天堂東京江東高齢者医療センターでは高齢者精神医学の専門的な臨床及び研究活動を実践している。すなわちそれぞれの病院の特性を活かしながら、一般精神医学（general psychiatry）、総合病院精神医学（general hospital psychiatry）、コンサルテーション・リエゾン精神医学（consultation-liaison psychiatry）、Medical Psychiatry Unit（MPU）、高齢者精神医学など幅広く勉強することが出来るのである。

各病院では、総回診やグループ回診、症例検討会、教室内での臨床・研究発表会、さまざまなクルズスなどの教育を行うと同時に、学会や学会誌への症例報告を積極的に指導している。自分の経験した症例を他者に理解出来るようにまとめて伝えていくことは臨床医としても研究者としてももっとも基本的な要素となると考えられるからである。



II 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数：27人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	7988	591
F1	514	37
F2	1362	228
F3	3976	240
F4 F5	7163	48
F7 F8 F9	666	31
F6	147	13
その他	0	0

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：順天堂大学医学部附属 順天堂医院
- ・施設形態：私立大学病院
- ・院長名：天野 篤
- ・プログラム統括責任者氏名：新井 平伊
- ・指導責任者氏名：大沼 徹
- ・指導医人数：(8) 人
- ・精神科病床数：(15) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1329	40
F1	158	21
F2	292	48
F3	568	26
F4 F5	2757	33
F7 F8 F9	56	3
F6	67	12
その他	0	0

・施設としての特徴

当院は、上述のように特定機能病院の指定およびJCIの認証を受けた総合病院における有床精神科という特色を持ち、一般精神医学（general psychiatry）を含めた総合病院精神医学（general hospital psychiatry）およびコンサルテーション・リエゾン精神医学（consultation-liaison psychiatry）を中心とした医療において各診療科に入院中の患者さんに生じた抑うつ、不安、せん妄などの診療を行うとともに緩和ケアチームの一員として主にながん患者さんのケアにも取り組んでいる（psycho oncology）。がん診療に関わる診療科では、毎週合同カンファレンスが行われており（キャンサーボード）、当科でも適宜参加している。院内では、不眠などをテーマに、内科を中心に様々な診療科と勉強会を行っている。又、東京都精神科身体合併症事業にも協力し、各診療科と連携して精神と身体を統合的に診察・治療する場としてのMedical Psychiatry Unit (MPU)としての活動も行っている。また東京都の区中央部（文京区、千代田区、港区、台東区、中央区）認知症疾患医療センターを担当しており、連携を取りながら認知症患者さんへのアウトリーチなどを行なっている。センター事業については、脳神経内科とも定期的な会議を行っている。

B 研修連携施設

- ① 施設名：順天堂大学医学部附属 順天堂越谷病院
- ・施設形態：単科精神科病院
 - ・院長名：新井 平伊
 - ・指導責任者氏名：鈴木 利人
 - ・指導医人数：(7) 人
 - ・精神科病床数：(226) 床
 - ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1342	67
F1	142	8
F2	594	174
F3	2259	206
F4 F5	2678	15
F7 F8 F9	258	28
F6	39	1
その他	0	0

・施設としての特徴

埼玉県越谷市にある226床を有する大学医学部附属の精神科単科病院である。当院は精神科病院として約50年、大学附属病院となって27年の歴史を持ち、埼玉県東部地域における精神科医療の中核病院としての役割と、大学附属病院としての機能を併せ持つ。年間延べ1,200名を超える初診患者と85,000名におよぶ再来患者の外来診療、そして年間約500名の入院患者の診療にあたっている。当施設は、日本精神神経学会のほか、日本老年精神医学会、日本臨床精神神経薬理学会の認定研修施設として認可されており、各学会の専門医の取得可能な施設である。

診療対象疾患は精神科領域のほぼ全ての疾患を対象としており、とくに認知症、うつ病、パニック障害、児童・思春期などの専門外来も充実している。埼玉県の精神科救急システムに参加し、地域精神科救急における中核病院の一つであるとともに、開放型の精神科急性期治療病棟を有し、気分障害や神経症圏、薬物依存症症例の患者の急性期に対応している。また内科や神経内科医も常勤しており、症状精神病にも積極的に協力し合い対応している。さらに亜急性期から慢性期患者への訪問看護や精神科作業療法、デイケアなどによる精神科リハビリや社会復帰支援にも力を入れている。

近年では治療抵抗性精神疾患に対する治療を充実させるために、クロザピン登録医療機関となりクロザピンによる治療のほか、全身麻酔下での修正型電気けいれん療法も実施している。

以上のほか、大学附属病院として臨床研究の場としても適しており、これまでに統合失調症、気分障害のそれぞれに600症例を超えるデータベースが蓄積されており、毎年多数の研究報告を国際誌に発表している。このような日常診療および研究環境において、研修医のほぼ全員ができるだけ短期間で精神保健指定医や学会専門医、学位（医学博士）を取得している。

② 施設名：順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター

- ・施設形態：大学附属病院
- ・院長名：津田 裕士
- ・指導責任者氏名：一宮 洋介
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 129 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3717	484
F1	19	8
F2	24	6
F3	87	8

F4 F5	60	0
F7 F8 F9	1	0
F6	0	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

順天堂東京江東高齢者医療センターは2002年に開設された、東京都江東区にある348床（一般病棟219床、認知症病棟129床）、25診療科を有する大学医学部附属病院である。メンタルクリニックは外来診療と入院診療（認知症病棟および一般病棟でのリエゾン活動）を担当しており、外来初診患者数は年間1200名を超え、認知症病棟の入院患者数は年間500名を超える。

当施設は、日本精神神経学会のほか、日本老年精神医学会、日本総合病院精神医学会の認定研修施設として認可されており、各学会の専門医を取得可能な施設である。診療対象疾患は精神科領域のほぼ全ての疾患を対象としているが、認知症治療病棟を併設しているため、認知症の早期診断、鑑別診断、早期治療、アルコール依存症を含む認知症のBPSDや身体合併症への対応が求められる特徴がある。外来初診患者の約90%が認知症である。外来では認知症の介護者に対する集団精神療法を実施し、介護者のサポートを図っている。また、東京都の認知症疾患医療センター事業にも参画しており、地域連携やアウトリーチを実践している。

当施設は、大学附属病院として臨床研究の場としても適しており、特に認知症においては東京都でトップクラスの診療実績をあげており、様々な症例を経験できることから、学会報告や論文作成も可能である。このような日常診療および研究環境において、研修医のほぼ全員ができるだけ短期間で精神保健指定医や学会専門医を取得する指導を行っている。

③ 施設名：施設名：順天堂大学医学部附属浦安病院

- ・施設形態：私立大学附属病院
- ・院長名：吉田幸洋
- ・指導責任者氏名：宮川晃一
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	469	0
F1	82	0
F2	144	0
F3	333	0
F4 F5	799	0
F7 F8 F9	115	0
F6	24	0
その他	0	0

・施設としての特徴

当院は656床、29診療科を有する総合病院であり、リエゾン・コンサルテーションでは多彩な疾患、症例を経験することが可能である。また三次救命救急センターを有し、急性薬物中毒や墜落等の自殺企図患者の診察依頼が多く、自殺企図患者の初期治療から関与することが可能で、当院の一般病床を用いた治療、サイマトロンを用いた修正型電気けいれん療法（年間200例以上）の他、必要に応じて精神科専門病院との治療の連携経験することが可能である。自殺企図後の自殺際企図予防の取り組みや、自殺企図患者の身体的治療終了後のきめ細かなマネージメントを経験でき、自殺関連の治療に特に力点を置いているところが当院の特徴ともいえる。一方、当院

は、地域がん診療連携拠点病院、エイズ治療拠点病院に指定されており、緩和ケアチームに参加し、HIV やがん医療における精神医学的ニーズに関して学び、治療経験を積むことができる。精神科病床は無いが、一般病床を用いた様々な精神疾患の治療の他、精神科専門病院からの身体合併症を有する精神疾患患者の合併症治療も積極的に行っている。当院は浦安市における唯一の精神科を併設した総合病院であり、地域医療、地域住民の幅広いニーズの応えるため、時には自治体と協力し、地域に根ざした実践的な経験を積むことが可能である。

④ 施設名：順天堂大学医学部附属静岡病院

- ・施設形態：私立大学附属病院
- ・院長名：三橋直樹
- ・指導責任者氏名：桐野衛二
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(0) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	830	0
F1	74	0
F2	237	0
F3	680	0
F4 F5	772	0
F7 F8 F9	230	0
F6	0	0
その他	0	0

・施設としての特徴

順天堂静岡病院メンタルクリニックは、日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設に認定されている。当院では、外来診療に加え、一般身体科入患者の中から精神科的治療が必要な患者をコンサルテーションリエゾンの対象として診療している。外来患者は増加傾向にあり、一日平均80人前後の患者(内、新患5人程度)を診察している。病院が伊豆半島という地域における重要な第三次救急病院であることより、合併症や自殺企図患者が搬送されることが多く、コンサルテーションリエゾンでは身体科と併診している患者は常に30-40人いる。精神科病棟での入院治療が必要な場合は、協力病院である沼津中央病院などの近隣の精神科病院と連携を図っている。

当院の特徴として、児童思春期症例・摂食障害・発達障害・認知症・依存症などの一般の精神科施設では診療困難な症例を積極的に引き受けることにより、静岡県精神科医療の牽引車の役割を果たしている。特に児童思春期症例に関しては、静岡県東部地区の教育機関より当院を指定してくる症例が多く、またうつ病・認知症の患者数は県内一を維持している。

外来においては一定期間の陪席研修の後、外来医とし独立して診療を開始する。コンサルテーションリエゾンにおいては、指導医の下で主治医として診療を行なっている。また第三次救急ユニットにおいて精神科救急医療にも携わる一方、臨床心理士と連携してSST(ソーシャルスキルトレーニング)・PT(ペアレントトレーニング)・CBT(認知行動療法)・心理検査を実践できるようにトレーニングを行なう。脳波判読、画像診断などのトレーニングも受け、特に脳波判読には時間をかけ、独り立ちして所見が書けることを目標とする。

近年、精神科医療は、ノーマライゼーション、または脱入院化が世界的な流れであり、今後外来診療が精神科の中核をなすものと考えられる。また医療の高度化にともない、特に総合病院における精神科医療のニーズはますます高まると考えられる。当病院における精神科後期研修においては、外来診療において幅広い精神科疾患の治療を経験することによって一般精神科医としての能力の向上を目指し、さらにはコンサルテーションリエゾンにおいて、身体疾患との合併症

患者を多く経験することにより、精神症状と身体症状を包括的に診療できる精神科医になることを目指す。

⑤ 施設名：順天堂大学医学部附属練馬病院

- ・施設形態：私立大学附属病院
- ・院長名：児島邦明
- ・指導責任者氏名：八田耕太郎
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(0) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	261	0
F1	18	0
F2	23	0
F3	23	0
F4 F5	64	0
F7 F8 F9	3	0
F6	5	0
その他	0	0

・施設としての特徴

当院は、一般病床 400 床を有する大学附属の総合病院であり、他科との強固な信頼関係の下に、コンサルテーション・リエゾン診療を活発に行っている。コンサルテーション・リエゾン診療を通して、多彩な疾患、症例を経験することが可能である。緩和ケアチームに参加して、がん医療における精神医学的ニーズに関して学び、治療経験を積むこともできる。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

<到達目標>

1年目：まずは順天堂越谷病院で、精神医学臨床の基礎となる統合失調症、気分障害の入院患者さんの治療を指導医のもと担当医となり、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学びつつ、入院から退院までの一連の臨床経験を積む。また、退院された患者さんの外来でのフォローや外来患者さんの予診、治療も徐々に勉強していく。また総回診やグループ回診、症例検討会、教室内での臨床・研究発表会、さまざまなクルズスなどの教育を行うと同時に、学会や学会誌への症例報告の指導をうける。自分の経験した症例を他者に理解出来るようにまとめて伝えていくことは臨床医としても研究者としてももっとも基本的な要素となると考えられるからである。

2年目：1年目で修得した一般精神医学の知識を基礎に、基幹病院の順天堂医院や連携施設の順天堂江東高齢者医療センターで、総合病院精神医学、コンサルテーション・リエゾン精神医学、Medical Psychiatry Unit (MPU)、高齢者精神医学など研修の幅を広げていく。この2年目で専攻医としての幅広く、かつ最先端の医療を踏まえた深みのある診療の基礎を固めていく。また個人のさらなる興味などによって、コンサルテーション・リエゾン精神医学や地域精神医療の研修に焦点を当て、連携病院の順天堂浦安、静岡、練馬病院での研修も可能である。

3年目：2年間の研修で児童・思春期精神障害、依存症の症例など、未経験の症例がない確認したうえで、6つの病院から専攻医の志向を考慮して研修を選択していく。特に3年目では指導医から自立して入院および外来診療できるように成長していただくが、常に上級者の指導の下に実践し、薬物療法や認知行動療法などさらに専門性のレベルアップを図る。また外部の学会・研究会などで積極的に症例発表などをしていく。

2) 研修カリキュラムについて 研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙) を参照。

3) 個別項目について

- ① 倫理性・社会性：本プログラムは基幹施設および全ての連携施設が大学附属病院であり、いかなる場所においても他科の専攻医とともに研修会が実施される。またコンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。
- ② 学問的姿勢：専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内および教室内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。全ての施設で、インターネット環境が整備されており、専攻医個人のアカウントが与えられる。同アカウントから大学図書館へのアクセスが可能であり、多くの邦文、英文の雑誌を閲覧が可能である。特に興味ある症例については、国内外問わず学会発表や和文英文問わず医学論文などへの投稿を進める。
- ③ コアコンピテンシーの習得：研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。
- ④ 学術活動 (学会発表、論文の執筆等)：本プログラムのもう一つの特徴であるが、全ての施設において、全ての疾患において臨床研究、基礎研究に、bio-psycho-social の観点から最先端レベルの指導を受けることができ、その成果を国際レベルの学会や論文として発表できる。

4) ローテーションモデル

典型的には1年目に連携施設の順天堂越谷病院をローテートし、精神科医としての一般精神医学の基本的な知識を身につける。2～3年目には基幹施設の順天堂医院および他の4つの連携施設大学附属病院を各半年～1年ローテートし、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童症例、認知症症例・依存症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。これら3年間のローテート順については、本人の希望やこれまでの経歴に応じて柔軟な対応が可能であ

る。

5) 研修の週間・年間計画 別紙2と別紙3を参照。

4. プログラム管理体制について

1) プログラム管理委員会

- 委員長 医師：新井平伊
- 医師：大沼徹
- 医師：黄田常嘉
- 医師：鈴木利人
- 医師：一宮洋介
- 医師：宮川晃一
- 医師：桐野衛二
- 医師：八田耕太郎
- 看護師：小崎綾子
- 精神保健福祉士：吉池由加奈

2) プログラム統括責任者：新井平伊

3) 連携施設における委員会組織

① 順天堂越谷病院

- ・指導責任者氏名：鈴木利人
- ・実務責任者：馬場元

② 順天堂江東高齢者医療センター

- ・指導責任者氏名：一宮洋介
- ・実務責任者：松原洋一郎

③ 浦安病院

- ・指導責任者氏名：宮川晃一
- ・実務責任者：宮田真美子

④ 静岡病院

- ・指導責任者氏名：桐野衛二
- ・実務責任者：桐野衛二

⑤ 練馬病院

- ・指導責任者氏名：八田耕太郎
- ・実務責任者：臼井千恵

5. 評価について

1) 評価体制

順天堂医院：新井平伊、越谷病院：鈴木利人、江東高齢者医療センター：一宮洋介、浦安病院：宮川晃一、静岡病院：桐野衛二、練馬病院：八田耕太郎

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3ヶ月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を研修病院の専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。順天堂医院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)
- 指導医マニュアル(別紙)

・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録 専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

- 1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理):各施設の労務管理基準に準拠する。
- 2) 専攻医の心身の健康管理:各施設の健康管理基準に準拠する。
- 3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的(年2回;4月、10月)にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

年2回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する

- 5) 専攻医とプログラム管理委員会は定期的に(年3回:5月、10月、12月)意見交換、プログラムの問題点を話し合う機会を設ける。その中で挙げられた点については、次年度のプログラム内容の改善に繋げることとしている。必要があれば、プログラム統括責任者より指導医への注意も行う。

週間スケジュール

順天堂医院（基幹）

	月	火	水	木	金	土
8:45-9:00	ブリーフィング	ブリーフィング	ブリーフィング	ブリーフィング	ブリーフィング	ブリーフィング
9:00-12:00	病棟業務	外来予診 リエゾン	病棟業務	教授回診 医局会 薬剤説明会	外来予診 リエゾン	病棟業務
13:00-15:00	病棟業務	病棟業務	外来予診 リエゾン	病棟業務	病棟業務	ブリーフィング (12:45-)
15:00-16:45	グループ回診					
16:45-17:00		ブリーフィング	ブリーフィング	ブリーフィング	ブリーフィング	
17:00-18:00	症例検討会 抄読会 クルズス					

※いずれの施設においても、就業時間が40時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

連携施設

① 越谷病院

曜日	時間	事項
月	9:00- 11:30- 13:00- 16:00-	入院診療・外来診療 1-2F 病棟・2-1F B 病棟 医長カンファレンス 入院診療・外来診療 2-2F A 病棟 医長カンファレンス
火	9:00- 11:30 13:00-	入院診療・外来診療 クロザピン患者検討会議 入院診療・外来診療
水	9:00- 13:00-	入院診療・外来診療 修正型電気けいれん療法 入院診療・外来診療
木	9:00 9:30- 11:00- 15:30- 17:00- 17:30-	修正型電気けいれん療法 総回診(病棟ラウンド) チャート回診 2-1F A 病棟・2-2F B 病棟 医長カンファレンス 医局会 症例検討会・抄読会
金	9:00- 13:00-	入院診療・外来診療 修正型電気けいれん療法 入院診療・外来診療
土	9:00-	入院診療・外来診療

② 江東高齢者医療センター

曜日	時間	事項
月	9:00- 13:00 15:00	入院診療・外来診療 入院診療・外来診療 5 B病棟・6 B病棟カンファレンス
火	9:00- 10:00 13:00-	6A病棟カンファレンス 入院診療・外来診療 入院診療・外来診療
水	9:00- 13:00	入院診療・外来診療 入院診療・外来診療
木	9:00 13:30 15:00- 16:00-	入院診療・外来診療 総回診(チャート回診・病棟ラウンド) 症例検討 医局会 精神医学レクチャー
金	9:00- 13:00	入院診療・外来診療 入院診療・外来診療
土	9:00-	入院診療・外来診療

③ 浦安病院

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
朝	m-ECT	m-ECT	m-ECT	m-ECT	m-ECT	m-ECT
午 前	病棟診療 外来予診 リエゾン	病棟診療 外来陪席 リエゾン	病棟診療 外来予診 リエゾン	病棟診療 外来陪席 リエゾン	病棟診療 外来予診 リエゾン	病棟診療 外来検査 リエゾン
午 後	総回診	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療 地域精神医 療(不定 期)	
夕方	症例検討会 抄読会 医局会 オンコール 待機	精神科治療 クルズス	精神科診断 クルズス	オンコール 待機	精神療法ク ルズス	

④ 静岡病院

曜日	時間	事項
月	7:00- 8:30- 13:00-	総回診 外来診療・病棟診療 外来診療・病棟診療
火	7:00- 8:30- 13:00- 17:00-	総回診 外来診療・病棟診療 外来診療・病棟診療 緩和ケアチーム回診・カンファレンス
水	8:30- 13:00- 17:00-	外来診療・病棟診療 SST（ソーシャルスキルトレーニング）・PT（ペアレント トレーニング） クルズス
木	8:30- 13:00-	外来診療・病棟診療 SST（ソーシャルスキルトレーニング）・PT（ペアレント トレーニング）
金	7:00- 7:30- 8:00- 8:30- 13:00-	新患紹介・チャート回診 抄読会・症例検討会 医局会 外来診療・病棟診療 CBT（認知行動療法）・心理検査・脳波判読
土	8:30-	教授回診・入院診療・外来診療

⑤ 練馬病院

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	回診 リエゾン 初診 カンファ レンス	回診 リエゾン 初診 カンファ レンス	回診 リエゾン 初診 カンファ レンス	回診 リエゾン 初診 カンファ レンス	回診 リエゾン 初診 カンファ レンス	回診 リエゾン 初診 カンファ レンス
12:15- 13:00	ランチョ ンセミナ ー	ランチョ ンセミナ ー	ランチョ ンセミナ ー	ランチョ ンセミナ ー	ランチョ ンセミナ ー	
13:00- 15:30	外来診療	リエゾン 診療	リエゾン 診療	リエゾン 診療	外来診療	
15:30- 16:30	症例演習	リエゾン 診療	症例演習	リエゾン 診療	症例演習	
16:30- 17:00	リエゾン 診療	リエゾン 診療	リエゾン 診療	リエゾン 診療	リエゾン 診療	
17:00- 18:30		各種講習 会（不定 期）	各種講習 会（不定 期）	各種講習 会（不定 期）	緩和回診 緩和カン ファレン ス	

年間スケジュール

基幹病院

順天堂医院

4月	SR1 研修開始:オリエンテーションおよび1週間集中クルーズ(精神症候学、薬物療法、脳波判読、精神保健福祉法など) SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 茶崖精神医療フォーラム 研修プログラム定例委員会① 外来陪席開始(後期研修)
5月	医局研修旅行
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加(任意)
7月	東京精神医学会参加
8月	日本うつ病学会総会参加(任意)
9月	日本生物学的精神医学会参加(任意) 症例検討会発表開始(後期研修)
10月	SR1・2・3 研修中間報告書提出 茶崖精神医療フォーラム 研修プログラム定例委員会② 日本臨床神経生理学会参加(任意)
11月	東京精神医学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加(任意)
12月	日本認知症学会参加(任意)
1月	
2月	
3月	SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

連携病院

① 越谷病院

4月	SR1 研修開始:オリエンテーションおよび1週間集中クルーズ(精神症候学、薬物療法、脳波判読、精神保健福祉法など) 茶崖精神医療フォーラム SR1 外来陪席開始(後期研修)
5月	医局研修旅行
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加(任意) 埼玉県東部精神医療フォーラム参加(任意)
7月	東京精神医学会参加 埼玉精神医学懇話会参加(任意)
8月	日本うつ病学会総会参加(任意)
9月	日本生物学的精神医学会参加(任意) 症例検討会発表開始(後期研修)
10月	茶崖精神医療フォーラム 日本臨床神経生理学会参加(任意)
11月	東京精神医学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加(任意)
12月	日本認知症学会参加(任意)
1月	単独外来診療開始(後期研修) 埼玉精神医学懇話会参加(任意)
2月	
3月	東京精神医学会参加 研修プログラム評価報告書の作成

② 江東高齢者医療センター

4月	SR1 研修開始:オリエンテーションおよび1週間集中クルーズ(精神症候学、薬物療法、脳波判読、精神保健福祉法など) 茶崖精神医療フォーラム 外来陪席開始(後期研修)
5月	医局研修旅行
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加(任意)
7月	東京精神医学会参加
8月	
9月	日本生物学的精神医学会参加(任意) 症例検討会発表開始(後期研修)

10月	茶崖精神医療フォーラム
11月	東京精神医学会参加 日本総合病院精神医学会参加（任意）
12月	日本認知症学会参加（任意）
1月	単独外来診療開始（後期研修）
2月	
3月	東京精神医学会参加 研修プログラム評価報告書の作成

③ 浦安病院

4月	SR1・2・3向オリエンテーション 千葉総合病院精神科研究会参加 茶崖フォーラム参加
5月	
6月	日本精神神経学会参加 日本老年精神医学会参加 日本緩和医療学会参加
7月	日本うつ病学会参加
8月	
9月	日本サイコオンコロジー学会参加 自殺予防学会参加
10月	茶崖フォーラム参加 日本認知症学会参加
11月	日本総合病院精神医学会参加
12月	
1月	
2月	地域精神科勉強会参加
3月	医局内研究発表・研修会
その他	臨床研修医指導(毎月) 医学部学生(M4, M5, M6) 指導 大学院心理実習生指導(4～7月, 10～12月)

④ 静岡病院

4月	オリエンテーション SR2・3向け週間集中クルーズ (精神症候学、薬物療法、脳波判読、精神保健福祉法、心理検査、SST、PT、CBT など) 茶崖精神医療フォーラム（順天堂6病院精神科合同）
----	--

5月	医局研修旅行（順天堂6病院精神科合同）
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	日本薬物脳波学会参加（任意）
8月	日本うつ病学会総会参加（任意）
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意） 静岡県東部臨床精神医学会参加
10月	茶崖精神医療フォーラム（順天堂6病院精神科合同） 日本臨床神経生理学会参加（任意）
11月	日本臨床精神神経薬理学会参加（任意） 静岡県東部精神科医会参加（任意） 日本総合病院精神医学会参加（任意）
12月	日本認知症学会参加（任意）
1月	単独外来診療開始（後期研修）
2月	静岡県物忘れクリニカルフォーラム参加（任意）
3月	静岡県東部臨床精神医学会参加・演題発表 研修プログラム評価報告書の作成

⑤ 練馬病院

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2・3 前年研修報告書提出 教室研究会（茶崖）参加
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	GHP 研究会（日本総合病院精神医学会東京地方会）参加（任意）
8月	
9月	教室研究会（茶崖）参加
10月	日本精神科救急学会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会参加（任意）・演題発表
12月	
1月	GHP 研究会（日本総合病院精神医学会東京地方会）参加（任意）
2月	
3月	SR1・2・3 前年研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成